

宮陵会報 2005・12

Kyu-Ryo

No.81

発行責任者
 社団法人 宮 陵 会
 広報委員会

〒221-0802
 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
 神奈川大学内
 TEL 045-481-5661
 (内線 2451~3)
 FAX 045-413-0791
 印刷所 株式会社 江森印刷所

相澤正敏(昭39経)・佳子(昭39Ⅱ部貿易)さん
 ご夫妻とっても楽しかった。プラスバンドの大
 ファンです。息子も神大卒です。



Vol.11
Welcome to Home Coming Day!!

津田 英樹(昭58経)
 はるばるロスアンゼルスから
 代表で来ました。



全国支部長会議のパネリスト
 前田義文さん右(昭39質)と
 松尾勇治さん(昭39経)



平林 利唯さんご家族(昭59質)
 また来たい!!! (お子さんたち談)
 毎年楽しみにしている。
 (毎年来てね!)



応援指導部大先輩の飛知和義光さん右(昭42質)
 と佐藤世司さん(昭43法)
 男ばかり50人もいた昔の応援団とは違い、今はチ
 アリーダーを入れ時代にあわせて変化していると
 感慨深げ。



めでたくI部に昇格したアメリカンフットボー
 ル部のOB会支部長手塚 正さん(昭60英)と
 神奈川大学前事務局長 北川 盛一さん



ホスト役のジン君カナちゃん



Contents
No.81

- 宮陵会支部総会報告… 2
- 第 11 回ホームカミングデー開催… 3
- 準会員ニュース… 4・5
- 大学ニュース (役員紹介) … 6
- 本部便り… 7
- 神大フェスタ・平塚祭 他… 7
- 神大の歴史 他… 8

八十八支部の参加による

平成十七年度

全国支部長会議開催される

テーマ「組織の活性化と大学との連携」——大学の発展と学生の課外活動の活躍も必須

平成十七年度の全国支部長会議は、「組織の活性化と大学との連携」をテーマに十月十五日(土)神奈川県セレストホールにおいて、全国各地から地域・職域・同期・同好、海外からはバンコクとロスアンゼルスなど八十八支部の参加を得、本部役員等を含めて一一八名で開催された。

先ず、宮陵会会長から抱える問題、昨年十二月の財政問題の中間答申に関する会費改定問題など財政基盤の根底について財政特別委員会に問題を付託し、現在諮問中であること。そして組織問題では社団法人としての存続問題、支部の活性化対策など問題提起を以て挨拶を終えた。この後、神奈川県白井宏尚新理事長及び山火正則学長からご挨拶と本学の教育改革と改編、事務組織の改革など私学を取り巻く状況と本学の現況と対応について説明をいただいた。

これまで、各支部では、若年層会員の行事参加が少ないことや支部活動の運営のための会費収入が少なく潜在会員の通信費などの維持経費が増加し収支が悪化する傾向にあった、



これらの問題を共通課題として対策を講じてきたところ、一朝一夕に解決できる問題ではないため、継続的に打開策を模索してきた。そのような中で一昨年から当会議は隔年開催となったため、本年十七年が二年ぶりの開催となった。今回の会議では、積極的な企画、先進的な活動を展開している支部に焦点を当て、第一部では、その支部の先進事例を全体会議で発表していただき、第二部では全国支部のうち積極的に活動している五つの支部から特色ある活動について発表の後、参考となる点や抱える問題点について討議するパネルディスカッション形式の企画とした。

第一部の「組織の活性化と広報」発表については、札幌支部高尾雅幸事務局長から解説をいただいた。札幌支部のホームページを大型スクリーンに投影し、行事開催企画から会員紹介ならびに行事実施報告などホームページの立ち上げから運営の方法など道標となる発表であった。第二部パネルディスカッション「地方組織の活性化」では、札幌・千葉・三重・愛媛・熊本の各支部長から各支部活動の特徴と問題点を提案していただいた。

各支部の発表内容は先ず、千葉支部では総会出席者が百名を超え他支部からみると多いが、四、〇〇〇名を超す千葉支部の会員総数からみると参加者はまだまだ少ない。企画案の背景や若い会員と女性会員が多数参加される企画の工夫などしている。地域性や個人情報保護法により、やりにくいところもあるが

学校で良い学生生活をおくれれば卒業して芽を出す。大学にはそのような環境作りをお願いしたいとのこと。

札幌支部では、できるだけ会合を多くして、アンケートなど行い、催事ごとにチェックし、新しいメンバー獲得に向けていきたい。全体会方式より小会方式をとる。大学にはスポーツで優勝するなどの話題性を要求したい。その追い風が欲しい。

三重支部は会員のデータベースを作成するなど基礎作りを展開、会報送付などメール会社に託し経費削減を図ると同時に積極的な会員確保展開を実施している。それでも支部総会の集まりは年々減ってきている。対策として参加者自由のあきのこない集いの場を設けている。今後、リタイア組の団塊の世代の活力をいかに活かしていくかが課題。大学の新役員には期待。学術・文化・スポーツ等様々な分野での活躍が欲しい。

愛媛支部は交通の便が悪い地域性から支部会の集まりが悪い。支部の下に地区会を発足させ支援している。その際、本部にも地区会への発足への支援をお願いしたいとのこと。若者、女性の参加が少ない。今後は、地区会の充実を図るため、今治に地区会の設置を予定。

熊本支部は総会には四十人ほど集まるとのこと。台風の時も三十人は集まったとのこと。結束力は強固だ。毎月定例理事会も第三木曜に定期的に情報交換をしつかりやつて

おり、積極的な組織活動を行っている。

以上の点から、地方の活性化のためには、大学の発展と駅伝に代表される学生課外活動における活躍などが必要であり、大学が元気であれば地域支部も元気になる。大学と地域支部の連携強化に向けた対応策が今後ますます重要になってくるものと思われる。

それぞれの支部のパネラーの熱のこもった発表が続いたため、予定時間はまたたく間に過ぎてしまい、パネラー間あるいは会場の会員との意見交換ができなくなってしまった。初の企画ではあったといえ、会場の意見や質問をどのように取り入れるかが課題として残った。

本館横で写真撮影の後、第三部は、アトラクションとしてラテン音楽愛好会による演奏があり、ステージの学生と先輩方諸氏との軽快なやりとりというハプニングにひと時を楽しんだ。

その後、本館八階の展望ラウンジに席を移しての懇親会で、各支部長間の交流を大いに図り全国支部長会議の一日を終えた。



一号館「永遠-Möbius」のモニュメント前で



第11回 神奈川大学

ホームカミングデー開催される

去る十月十六日(日)横浜キャンパス体育館において「第11回ホームカミングデー」が開催されました。

母校と卒業生の絆を深め、旧師や朋友との語り合いを通じ、ネットワークを広げていただくことを目的として、学校法人神奈川大学と社団法人宮陵会の協賛により平成六年から始まったこの催しも十一回目となりました。

今回は卒業後五十一年以上(昭和三十年以前卒)、三十五年目(昭和四十五年卒)、二十年目(昭和六十年卒)、十年目(平成七年卒)、一年目(平成十七年卒)の校友の方を中心に

ご案内いたしました。これ以外の卒業生の方々の参加も多く、実に九二四名の参加をいただき会場は熱気に包まれ大いに賑わいました。

北は北海道から南は沖縄まではるばる遠方から来られる方もおられることから、ホームカミングデーの開催日に合わせて、あらかじめゼミナールや研究室毎に同窓会を計画するケースも年々増えているようです。

このように多くの方の参加をいただいたことは、大学関係者や宮陵会にとっても大きな喜びです。

当日の式典は、卒業生であるテレビ山梨のアナウンサー「大西かや」さんの司会進行により、学校法人神奈川大学白井宏尚新理事長からの歓迎の挨拶に始まり、神奈川大学山火正則学長から学事報告が行われた後、参加者を代表しての場晴次(昭和四十五年卒)さん

近郊に到着き、同窓会「米国ロスアンゼルス支部」を立ち上げ、本学と連絡を取り合ううちにホームカミングデーのを知り、一昨年、卒業二十周年、八年ぶ



卒業後、神奈川大学そのものが頭から離れていた事もありました。現在ロスアンゼルス

第11回ホームカミングデーと 全国支部長会議に参加して

米国ロスアンゼルス支部幹事

津田 英樹(昭58経済学科卒)

りに母校を訪ね、催しに参加致しました。感激し、ロスアンゼルス支部の設立を本部から御承認頂く様手続きし、その後必ずまた出席しようとして決めて戻り、今年はロスアンゼルス支部幹事と言う立場で出席しました。

支部長会議に關しましては、各支部の話し合いの場と言うより話を聞くことが中心で、はるばるLAから参加した私には少々退屈でした。また、確かに学校運営に於いての話は最も重要な事、しかし理事長、学長がほぼ同じ内容の話をされ、

前日の支部長会議とホームカミングデーの両方で聞くというのは工夫の余地があるのではないかと感じました。

学生との懇談会、ホームカミングデーは前回出席時以上の盛り上がりを感じました。卒業生と在校生との会話、活躍する方々の紹介、この様な事に時間を費やす事により更に参加者の愛校心を築く事が出来るかと考えます。来年も参加いたします。是非全員参加型の大会運営をご企画戴く事を願っております。

最後に、ここLAには二十を越える日系大学同窓会があり、ゴルフ大会、テニス大会などで親睦を深めております。私はそのまとも役の様な事もしておりますが、神大のホームカミングデーは話をするたびに羨望の的です。

今後の神大の発展を祈念いたします。

から謝辞が述べられました。ウエルカムパーティーでは鏡開きにより社団法人宮陵会狩野七郎会長の発声により乾杯が行なわれ、歓談の輪が広がるなか、本マグロの解体、茶道研究部の立礼によるお茶がふるまわれ、舞台では全日本吹奏楽コンクールで通算十九回金賞を受賞した吹奏楽部による演奏やフラメンコサークル「ロスガトス」による艶やかな舞が披露されました。その後、お楽しみ抽選会ではペア宿泊券など豪華な賞品の抽選をめぐり喜びの声や残念がる声に会場は包まれ、やがて式典行事も最終段階の応援指導部の演技に移っていきました。チアリーダーなどの華やかな演技の後、応援指導部の寮歌のところではなつかしさに感極まったのでしょうか、眼鏡の奥を光らせていた方もおり、やがて会場の興奮は一気に高まりを見せました。最後に専門学校校歌、神奈川大学校歌を斉唱し式典は和やかに終了いたしました。

水泳部

種田 恵さん ユニバーシアード競技大会で200M 平泳ぎ見事優勝!!

水泳部の種田恵さんは、8月12日よりトルコのイズミールでおこなわれましたユニバーシアード競技大会に出場し、200M 平泳ぎで見事金メダル獲得を成し遂げました。自己ベストタイムには今一步及ばなかったものの、2'27"81というまずまずの記録でした。普段はどこにでもいるようなかわいらしい女性ですが、このような大きな大会でプレッシャーにも負けずに結果を残してくるところなどは、さすがトップアスリートです。



狩野宮陵会長に講えられる種田さん

その後の日本学生選手権では、神奈川大学の名を背負い、200M 平泳ぎで優勝。国体では100M平泳ぎで大会記録に近いタイムでの2位入賞と、輝かしい成績を残しています。

11月2日よりマカオにて開催されました東アジア競技大会では200m平泳ぎで銅メダルを獲得しました。大会前、部員たちに「今シーズン最初の大会なので、いいスタートになるように頑張ります!」と語った意気込みの通り、すばらしい結果を残してくれました。神大に入学してからのこの一年はシーズンを通して世界の舞台で輝かしい結果を残しました。皆様、これからも種田さんがすばらしい活躍をできますよう、応援よろしくをお願いします。(水泳部主務 白鳥 一樹)

女子 サッカー部

皆さん! 女子サッカーで年末、大学日本一を取りにゆきます!! 神戸です!! 12月27・28・29日です!!

神大の女子サッカー部は5年前に誕生したばかりです。当時、私は経営学部長(湘南ひらつかキャンパス)職にあり、体育の鎌田教授に「平塚キャンパスで日本一を目指すようなサッカー部を」ということでお願いしました。その鎌田先生は昨年定年退職されましたが、先生のご長男、鎌田俊二氏(神大非常勤講師)と奥様が、それぞれ監督・コーチという立場で現在は引き継いでくださっています。お二人はほとんど報酬なしの「完全ボランティア」とでもいうような状態で、懸命に強化活動・指導を長年続けられ、ついに、本気で<大学日本一>を目指すところまで引き上げてきてくださいました。今年が集大成の年です。

<今年がチャンス=大学・No. 1>われわれの目標は、あくまでも<大学日本一>です。関東(大学)予選をすでに勝ち抜き、上記日程で行われる神戸での「全日本大学選手権」に向けて、猛練習を重ねています。昨年は準決勝で4-3で敗れ、第三位に終わりましたが、今年は石にかじりついてでも大学日本一を決める「決勝」に、残りたいと気合十分です。強敵は日本体育大学、武蔵短期大学・早稲田大学・大阪体育大学、といったところです。

是非ご声援ください!! 特に、関西地域の皆さんは、年末、神戸に足を運びください。よろしくをお願いいたします。もちろん、勝ち抜いて「国立競技場」にも!!

女子サッカー部 部長 石積 勝 (経営学部教授)

ボウリング部

佐々木智之さん 東アジア競技大会ボウリング男子トリオ戦で優勝!



左端 佐々木智之さん

平成17年10月29日から11月6日まで中国マカオで行われた第4回 東アジア競技大会(4年に一回)で本学自治行政学科1年 佐々木智之さんが男子トリオ戦で見事金メダルをゲット。

ボウリングを始めたきっかけは、ご両親がボウリングファンで小学4年くらいから始めたこと。兄(神大生)もボウリングをやっていて一緒に県大会に出場し、ダブルス準優勝したことがあるボウリングファミリー。戦績は第7回アジアインタースクール選手権マスターズ優勝/第29回 ABS ジャパンオープンボウリング選手権男子ダブルス戦第1位/第59回埼玉国体 少年男子個人戦第1位/第58回高知国体個人戦、団体戦とも優勝/第57回静岡国体では団体戦優勝 東アジア競技大会マカオの戦績と合わせても輝くばかりの戦績だが、今のところプロには行かないとのこと。アマのナショナルチームのほうプロより海外戦が多く出られ、海外の強豪選手と戦えるチャンスが多いことがその理由。当面、来年2月オーストラリア・パースで開かれるアジアユース大会が次の目標。今後、佐々木君にはワールドカップ、世界選手権等において活躍する勇姿を期待したい。(広報委員会)

吹奏楽部

『第53回全日本吹奏楽コンクール』19回目の金賞を受賞しました!!

私たち吹奏楽部は、10月22日に大阪で開催されました『第53回全日本吹奏楽コンクール』に出場しました。昨年はコンクールの規定により出場することが出来ず、1年あけての出場となりました。

全国大会までの練習は、授業等でメンバーが揃う時間が少なく、焦りを感じていました。また、コンクールを経験している部員が少なく、プレッシャーをかかえていましたが、おかげさまで19回目の金賞を受賞することができました。今まで、強化練習や遠征で厳しい練習をしてきましたが、金賞を受賞したときは、その辛さを忘れてしまうほど感動しました。

全国大会に出場できたのも、応援していただいた皆さまのおかげだと感謝しています。この大会出場は、私たちにとっても次につなげる為の大変貴重な経験になりました。これからも練習に励み、皆さまに感動していただけるような演奏をしていきたいと思ひます。



軟式 野球部

第5回日米大学軟式野球国際大会の全日本代表

平塚軟式野球部3年 持留 功作さん

私は、9月15日から9月27日まで第5回日米大学軟式野球国際大会の全日本代表としてアメリカ合衆国テキサス州に遠征しました。昨年に引き続き二年連続で選出されたことに加え、今年は主将に抜擢されたこともあり、やる気に満ち溢れていました。

今大会、私は「最高のチームをみんなで作り上げる」を目標に挙げ、日々の生活から首脳陣や選手と積極的にコミュニケーションを取りました。

テキサスでは気温40℃を越えた暑さの中で練習し、その熱さが本当に辛く熱中症になって倒れてしまうほどでした。試合は、計3試合行い全て勝つことができ納得のいく結果となりました。私自身も主将として勝たなければいけないというプレッシャーの中、全試合出場することができ、ヒットを打ち、盗塁を決めることができたので納得のいく結果を残しました。

私は、今回の遠征でアメリカの文化や習慣を肌で感じることもできたことに加え、野球ができることへの感謝の気持ちを改めて感じました。そして、最高の仲間と出会えて本当に幸せに思う遠征になりました。(湘南ひらつか軟式野球部 持留 功作)



硬式 野球部

秋季リーグ惜しくも準優勝…

来年は一戦一戦全力でぶつけにいきます!!

この度は多忙の中、神奈川大学野球秋季リーグ戦に足を運んで頂きましてありがとうございました。

成績は関東学院大に惜敗し準優勝という無念な結果でした。今秋季戦は横浜国立大学、横浜商科大学、神奈川工科大学に一勝される苦しい戦いが続きましたが、チーム一丸となって戦い、勝ち点を得る事が出来ました。最終戦では春季戦と同じく関東学院大との優勝を賭けた大事な戦いでしたが、序盤リードするも終盤に追いつかれ逆転され惜敗しました。しかし、春に一勝も出来なかったチームに秋は一勝する事が出来ました。これは、春に比べチーム全体が成長した証拠だと思ひます。四年生は引退し、新チームになるのですが主戦の投手を軸にチームを作り上げ、この春・秋と二回も味わった苦しみを来年、一戦一戦全力でぶつけにいきます!!

今後とも硬式野球部に温かいご声援、ご支援を宜しくお願い致します。



(硬式野球部 主務 高橋 一彰)

準会員 NEWS

陸上 競技部

第17回出雲駅伝12位・第37回全日本大学駅伝総合7位 箱根駅伝に向けて頑張ります!!

学生三大駅伝のうち、第17回出雲駅伝(10月10日)・第37回全日本大学駅伝(11月6日)の二つの大会を終え、出雲駅伝では総合12位、全日本駅伝では総合7位という結果に終わりました。全日本駅伝では前年と同様、シード権を目前にしながら7位に終わり部員一同、大変悔しい思いを味わいました。

毎年全日本駅伝が終わった後に、大会に出場した選手を横浜に残ったメンバーで新横浜駅まで出迎えに行きます。激しい雨の中を力走した選手を励まし、チーム全員で箱根駅伝に向け、気持ちを切り換えて練習に取り組む決意をしました。

二大会中は、宮陵会の皆様からは温かいご声援をいただきありがとうございました。皆様からの声援は、選手にとって、とても力強い励みとなりました。また駅伝ブロックは北海道の遠軽町・深川市で毎年夏季強化合宿を行っております。今年も卒業生の皆様をはじめ、応援して下さる方々に激励会を設けていただき懇親を深めることができました。

全国各地で私たち後輩の活動を支援していただき、深く感謝しております。現在は、第82回箱根駅伝に向け陸上競技部一丸となって練習に取り組んでおります。大会当日は是非沿道にお越しいただき、皆様から直接選手へ応援をお願いしたいと思ひます。今後とも陸上競技部へご支援・ご声援の程、どうぞよろしくお願ひいたします。(陸上競技部マネージャー 宮向 孝子)



出雲駅伝4区を走る 2年 森津 翔太さん

レスリング部

新世代への道!! ~レジェンドからニュージェネレーションへ~

9月16日に行われた全日本大学フリー王座決定戦を最後に4年生は実質引退をした。そして、私たち3年生による新体制ができあがった。主将になった今、自分の練習だけでなく、チーム全体をみてしっかりまとめなければいけないと思っている。

今年はリーグ戦で去年より順位を2つ上げての13位という団体成績をおさめた。また個人では、経営学部2年 峯村 亮(グレコローマンスタイル55kg級)によるアジア選手権3位、また、経営学部2年 漆原 祐一(グレコローマンスタイル66kg級)による全日本大学グレコローマン選手権3位等の成績をおさめている。

チームの目標はまず、フリースタイルとグレコローマンスタイルの融合、つまり、ひとつになり純粋力を高めることだ。次に個人個人が強くなり、結果をだせるような練習をして、よい雰囲気作りをし、次の団体戦、リーグ戦に去年以上の成績をあげたい。

これらの目標を皆が意識して取り組めばできると思うので、主将である私の腕の試しどころでもあり、同級生の幹部などと相談しながら乗り切っていきたい。不安がないといったらうそになるが、周りの皆を信じてまた自分自身もガッツは120%あるので、全力投球、いや…全力タックルし、困難な状況を乗り越え、任務を全うしていきたい。(レスリング部 主将 小原 大成)



経営学部2年 漆原 祐一さん

アメリカン フットボール部

おめでとう! Atoms! 関東大学アメリカンフットボールリーグ戦II部リーグを制覇! I部リーグ昇格へ!

神大アメリカンフットボール部 Atoms が関東大学アメリカンフットボールリーグ戦II部リーグを制覇! 同時に創部以来初のI部リーグへの昇格も果たした。

詳細については次で紹介。乞うご期待!



学校法人 神奈川大学

新理事長・理事・監事

学校法人神奈川大学評議員会は九月二十三日に新評議員会を開催し、職務上の理事である学長を除く新理事・監事を選任しました。また、評議員会に続いて、同日開催された新理事会で白井宏尚氏が理事長に、貝田泰雄、大林弘道の両氏が常務理事にそれぞれ選任されました。

新理事長挨拶

宮陵会のご支援に感謝

神奈川大学理事長 白井宏尚



大学を取り巻く環境が厳しい逆風にさらされている中、九月二十三日付で理事長に就任しました。宮陵会の

皆様には、日ごろから大学運営に多大なご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。大学は今、少子化の中で文字通り厳しい冬の時代を迎えています。そうした時期に重責を担うことになりました。私は昭和三十五年に本学を卒業しました。以来約四十年間、マスコミの世界で、さまざまな体験をしてきましたが、過去の経験とは違った責任の重さを実感しています。平成十九年には、全国の国公私立大学の入学定員と入学志願者の数がイコールになる大

学全入時代に突入します。東京大学がこの秋、札幌で学校説明会を開催しました。本学を含めて私立大学は、毎年地方の各都市で学校説明会を開いています。これは全国各地で展開されている国公私立大学を巻き込んだサバイバル競争を象徴する典型的な出来事です。少子化の影響は深刻です。全国私立大学のうち三分の一が既に定員未達に陥っています。私立大学の年間運営資金の八割強は、学生生徒の納付金ですので、学生数の減少は収入減に直結し、経営危機に直面することになります。神奈川大学も例外ではありません。毎年志願者数は、残念ながら減少傾向をたどっていますが、それでもまだ入学定員の八倍の志願者を確保しています。これは、学園創設以来の先人達が築いてきた神奈川大学の伝統

と信用に加えて、現在この大学を支えている教職員の努力の結果であります。

しかし、油断は出来ません。本学はこれまでも、さまざまな対策を取ってきましたが、さらなる努力が必要です。その一つとして平成十八年度から教育組織の改革・改編を実施します。新学部、新学科設置のほか長期履修学生制度、FYS(ファースト・イヤー・セミナー)、セメスター制度の導入、キャリア形成科目の設置など魅力ある大学づくりに大いに期待の持てる改革だと思っています。

受験生とその家族の最大の関心事は、何と言っても大学卒業後の進路でしょう。神奈川大学卒業後の就職先はどうなるのか、希望する進路に到達するために在学中に何をすべきなのか。新年度から導入するキャリア教育は、そうした学生のニーズに応える絶好の場になると思います。今回の教育改革を起爆剤に学生から選ばれる魅力ある大学づくりに全学一体となって邁進しなくてはなりません。教学部門をサポートする事務組織の役割も極めて重要です。大学を取り巻く環境が大きく変わった今、旧態依然たる事務組織を根本的に見直す必要に迫られています。激変する大学を取り巻く環境に即応できる柔軟で活力のある職場構築のための具体策を検討して早期に実施したいと考えています。

全国大学の激しいサバイバル競争の中で、神奈川大学をいかにして勝ち組の軌道に乗せられるか。経営の最終目標は、この一点に尽きます。このことは、教職員はもちろんのこと、全卒業生共通の願いであることに異論を挟む余地はないと思います。目標は一つです。神奈川大学の将来を見据えて確固たる基盤を構築するのが私を含めた現経営陣の最大の役目だと肝に銘じています。宮陵会の皆様方のさらなるご支援、ご協力を心からお願ひ申し上げます。

理事長略歴

神奈川大学卒業、平成八年六月(株)共同通信社取締役事業局長、平成九年六月(株)共同通信社代表取締役専務、平成十二年六月(株)共同通信社顧問、平成八年九月学校法人神奈川大学評議員、平成十一年九月学校法人神奈川大学理事、平成十三年十月学校法人神奈川大学常務理事

新理事・監事の紹介

■学長・理事

山火正則

■常務理事

貝田泰雄

大林弘道

■理事

杉谷嘉則

中島三千男

永田一清

吉田蒼生夫

澤田敏志

原田敏志

飯岡樹広

井田富夫

鈴木木実

岡本実

藤嶋昭

■監事

内田文昭

恒田彰久

森谷伊三男

(常任監事)

◆ 本部だより ◆

【新支部長紹介】 (本部届出順)

- 空手部OB会支部
- 中山 武志 (41 賀)
- 横浜信用金庫支部
- 瀬下 雅広 (46 経)
- 長野東北信支部
- 宮坂 恒一 (39 賀)
- 奈良支部
- 山本 義弘 (39 法)
- 宮城支部
- 小林 保博 (37 電)
- 筑豊支部
- 坂井 公明 (36 賀)

訃報
謹んでお悔やみ申し上げます

成井安太郎 殿 (22 経)

磯子区支部支部長

平成 17 年 8 月 27 日 (逝去)

熊坂 浩 殿

元工学部経営工学科教授

平成 17 年 10 月 13 日 (逝去)

― お詫びと訂正 ―

宮陵会報第80号の本部だより訃報欄に誤りがありましたので訂正させていただきます。関係者の皆様には、大変ご迷惑をお掛け致しました。心よりお詫び申し上げます。
(誤) 田口世志男殿 (46 法)
↓ 田口世志男殿 (46 法) (令室)

『プラウドブルーの絆』

駅伝ファン 要チェック

- K: やー、Qちゃん、優勝おめでとう。これで完全復活だね。
- Q: K監督、ご無沙汰しております。ニコニコして、何かいいことでもあったんですが？
- K: Qちゃんの復活もうれしいんだけど、それ以上にいいものを発見してね。神奈川大学のホームページ、ジンダイエキデンサイトで連載中の小説『プラウドブルーの絆』って知ってる？
- Q: 初めて聞きました。
- K: 神大駅伝チームの『襷』をテーマにつなぐ連載小説なんだけど、著者の山内美樹子さんは神奈川大学の卒業生で今年、北区内田康夫ミステリー文学賞、審査員特別賞を受賞したらしいよ。
- Q: なんか、すごいですね。
- K: すごいなんてもんじゃない、駅伝ファンは必見だよ。とにかく見てみてよ。アドレスは <http://ekiden.kanagawa-u.ac.jp/> だよ。
- Q: ハイ、それじゃ、今から見てきます！

神大駅伝チーム応援小説『プラウドブルーの絆』ジンダイエキデンサイト (<http://ekiden.kanagawa-u.ac.jp/>) にて好評連載中

神大フェスタ

11月5日(土)・6日(日)の両日、「学生主体」「地域密着」をコンセプトに第7回目を迎えた神大フェスタが横浜キャンパスにおいて開催されました。今年のテーマは「Love JINDAI?」で、「もっと神大を見てもらいたい」、「もっと愛される大学に」等の意味が含まれています。今年度から神奈川大学の正式な大学祭となり、過去最大規模の250を超える諸団体が参加しました。恒例となったステージイベント「神大スター決定戦」では、予選を経て選び抜かれた8組の神大生がスターの座をかけて、歌やダンス、お笑い、大道芸などで競い合いました。また、市民の皆様を対象とした「EU-横浜市民交流 in 神大フェスタ」、工学部の研究活動を紹介する「工学部オープンラボ」、受験相談会も併行して実施されました。

両日合わせ、過去最高の約15,000人の来場者がありました。当日参加可能なイベントが多いことや近隣町内会によるフリーマーケットや飲食店もあり、ご来場の皆様からは「参加しやすく雰囲気よかったです」、「爽やかな学園祭でした」等の好評を頂きました。

(神大フェスタ実行委員長 高嶺 徹)



平塚祭

今年の平塚祭は天候にも恵まれ、神奈川大学湘南ひらつかキャンパスの公式行事として盛大に催すことができました。平塚祭は地域密着をモットーに学生だけでなく一般の地域住民も気軽に楽しめるようなステージ企画を開催目標としてきました。また、毎年招待するお笑い芸人やアーティストによるライブも見所の一つとなっております。今年のお笑い芸人からは、テレビでお馴染みのタカ&トシ、ホーム・チーム、アーティストでは、アカペラグループのAJI、坂上庸介さんをお招きし、いずれも大好評でした。その他にも、今回初めての試みとなる、よさこい踊りのチームも平塚祭を沸かせました。

今年のコンセプトである『楽。～楽しくなければ祭りじゃない～』にふさわしい楽しい文化祭になったと思います。

(平塚祭実行委員長 原 健一)



六十年前の卒業証書

今年九月三十日の九月期卒業式にて、六十年前(昭和二十年)に卒業された小林武司さんへの卒業証書授与が行われた。

小林さんは大正十三年一月生まれで、横浜専門学校電気科の第一期生。第二次大戦の戦局悪化に伴う「学徒出陣」の影響で三年次の段階で九月期に繰上げ卒業となった。その後、卒業証書の授与が行われないまま昭和の戦後混乱期から平成に移り、戦後六十年の節目の今年、小林さんご本人からの問い合わせにより、当時の卒業証書が眠っていることが判明、めでたく証書授与のはこびとなった。

当時の林頼三郎校長(司法大臣等を歴任)から現山火学長へ六十年の時を超えた卒業式のバトンタッチを終え、古びた卒業証書は今持ち主のところに帰っている。



60年ぶりに卒業証書を授与された小林武司氏

61年ぶりの快挙!!

プロ棋士への 難関突破! おめでとう 瀬川晶司さん!



11月6日に行われたプロ編入試験第5戦においてプロ棋士5段と壮絶な戦いの末、勝利をおさめ通算3勝2敗で見事合格!というニュースに驚かされた。しかも、アマチュアのプロ編入が実現するのは61年ぶりという快挙。すごいサラリーマンがいるもんだと感心していたら本学出身(平13Ⅱ法卒)と分かり2度驚き。

一旦、あきらめたプロへの道を心機一転、やり直した覚悟、努力いずれも尋常ではなかったと思うが、狭き門をこじ開け、難行を成し遂げた努力、力量は間違いなく世間が認めるプロという勲章をもたらした。後に続くアマチュア棋士達の希望を広げ、戦後のパイオニアになったと同時に、本学の誇りともなり、学生のよきお手本となった。

今後は必勝を要求される身、元気で対局にのぞむ勇姿を応援したい。デビュー戦は12月12日(月)のアマ竜王の清水上徹さんと対戦。

(写真提供 日本将棋連盟)

神大の歴史(23)

樋貝 詮三氏(横浜専門学校理事)

大正末期の騒然とした社会状況を憂えた米田吉盛(創立者)は敢えて学究の道を捨て、教育者として中正堅実な青年の育成をめざした。学校開設の計画には母校中央大関係者を中心とした多くの協力者がいた。なかでも「最大の協力者」といわれる樋貝詮三から得た物心両面にわたる支援は米田を大いに力づけた。後に米田は樋貝を「兄のような存在」と語っている。

専門学校開設のプランを作成した米田は、まず、当時法制局参事官の要職の傍ら中央大学で商法学講師をしていた樋貝に相談を持ちかけた。このとき樋貝は事業計画への協力や出資者の紹介にとどまらず、自ら資金提供を約している。樋貝からの望外の申し出に氣をよくした米田は、翌日にはやはり当時司法次官の要職にあり中央大学の講師をつとめていた林頼三郎(後に司法大臣、枢密顧問官などを歴任)を次官室に訪ね、「若い私を育てるお心組みで校長として名前だけでもお貸しいただけないか」とお願いし、快諾を得た。このとき米田は弱冠二十七歳。事業計画は愈々、横浜学院の開設を経て専門学校設置申請が具体化していくと、開校に必要な校舎建設資金が相当に不足することがわかった。米田はこの難局を打開するため樋貝に重ねての資金提供を

仰ぐなどして漸くに計画をすすめている。

専門学校に先んじて開設した横浜学院は、樋貝と同郷の有力者若尾幾太郎から中区桜木町の三階建てのビルの一、二階を借りて校舎とした。樋貝はまた、横浜専門学校境之谷校地や移転先の六角橋校地等の選定にあたって、決定前に下見に同道して若い米田に的確な助言を与えている。

樋貝詮三は一八九〇(明治二十三年)、山梨県勝沼に生まれた。家業は葡萄栽培。父三良兵衛は当地の葡萄栽培における指導者の立場にあった。詮三は三男五女の末弟、兄弟はみな学問をよくした。詮三は早くから官界を志したが、長兄の病死などにより中学卒業後は父にしたがい葡萄栽培に専念することになった。

しかし、官界雄飛への思いは断ちがたく、父の死後、次兄の援助を得て上京。中央大学法文学部に編入、卒業。更に京都帝国大学法科大学にすすみ銀時計を授与されて卒業。官界では、内閣恩給局長、保険院長官等の要職を歴任した。この間、中央大学教授に就任。退官後、戦後第一回の衆議院議員選挙で当選、政界へ転じた。樋貝はこのとき初当選でありながら衆議院議長に就任している。その後、国務大臣などを歴任するが一九五三(昭和二十八)年一月一日、病に没した。享年六十三歳。

(追記)今年二月、樋貝千枝子さん(子)を療養先に尋ねお話しをお伺いする機会があった。その折りに千枝子さんは、東京・渋谷の自宅に「校長の代理みたいなのが泊まっていたことがあった」と戦前の思い出を話された。どのような方かと問い返したところ、若い頃の米田吉盛その人のようであった。(I)



樋貝 詮三氏

訂正 宮陵会報第80号

神大の歴史(22)の本文六行目「加藤の隊(加藤隼戦闘隊)」は「加藤の隊」に訂正させていただきます。